

観光社会資本の事例

テーマ	アルプスのすばらしい眺望を目のあたりにできる道路
【施設の状況写真】	
	
大黒岳から桔梗ヶ原・烏帽子岳を望む	
【施設の利用写真】	
	
雲上のスカイラインを走るバス	摩利支天岳方向よりスカイライン終点の畳平を望む
【観光資源としての利用状況】	
<p>乗鞍スカイラインは標高2702mの乗鞍畳平に登る雲上道路で、沿線でのハイマツ帯やお花畑など高山地帯特有の景観や頂上での北アルプスの絶景など、訪れる人に感動と大自然を満喫させる自然の宝庫で、飛騨地域の有数な観光資源として親しまれている。</p>	
<p>乗鞍岳周辺にはライチョウなどの希少生物が生息し、また貴重な高山植物が自生しており、この自然環境を保全し後世に残していくため、乗鞍スカイラインでは平成15年度よりマイカー規制が行われている。</p>	

テーマ	アルプスのすばらしい眺望を目のあたりにできる道路
【社会資本の基礎データ】 ○名称 主要地方道 乗鞍公園線(乗鞍スカイライン) ○所在地 岐阜県高山市丹生川町乗鞍 ○事業名 有料道路事業 ○事業主体 岐阜県 ○事業期間 昭和44年～昭和48年	
【社会資本の役割・効果】 乗鞍スカイラインは、国道158号の平湯峠と中部山岳国立公園内の乗鞍岳畳平を結ぶ全長14kmの山岳道路である。全延長の8割が中部山岳国立公園の中にあり、アルプス等のすばらしい眺望を目のあたりにすることができる雲上道路として人気を博している。 この道路は、旧日本陸軍により軍用道路として開発され、終戦後に県道に編入された。その後、拡幅改良を行い昭和48年に県営有料道路となり、さらに昭和55年に岐阜県道路公社に引き継いだものである。 現在は、平成15年4月に無料化に伴う交通の増加及び自然環境への配慮からマイカー規制を行うなど自然環境の保全に取り組んでいます。	
【位置図】 	
【関連ホームページ】 飛騨乗鞍観光協会 http://www.hida-norikura.com/index.shtml	